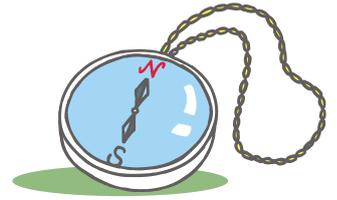


羅 針 盤

第 **16** 号 令和4年（2022年）8月29日（月）



◆ 「志（こころざし）を立てて、もって万事の源となす」

「志（こころざし）を立てて、もって万事の源となす」これは、幕末の私塾「松下村塾」で、後の明治維新で活躍する多くの人材を育成した長州藩出身の吉田松陰（よしだしょういん）が残した言葉で、「何事をするにも、志（こころざし）を立てて努力しなければ、実現させることはできない。まずは、志（こころざし）を立てることが第一であり、全ての始まりである。つまり、万事は志（こころざし）を立てるところから始まる。」ということの意味しています。これまでも「志（こころざし）を高く持つ」ことについては、何度も繰り返し話をしてきました。「志（こころざし）」それは、心が向かうところであり、将来こんな人になりたい、こんな仕事をしてみたいといった夢の実現に向けて始まるものです。そして、その思いが更には「自分はいったい何をすれば社会に役立てることができるようになるのか（社会貢献）」といったことを考えるまでに高めたものであるといえるでしょう。「志（こころざし）」は、生涯にわたっての学び続ける力の源となり、事を成し遂げるための大きな力となるものです。そして、「志（こころざし）」を立てるためには、多くの人に出会うことや、様々な経験を積み重ねることが大切なことです。日頃から、「こうありたい。」「こうしたい。」「こんなことができるようになりたい。」といった気持ちを持ち続けて、目標を持つことが大事なことです。どんな小さな目標でも構いません。その目標を一つ一つ、努力を積み重ねて、成し遂げていくことが「志（こころざし）」へとつながっていきます。また、志（こころざし）を高く持ち、将来の夢を大きく描き、具体的な目標を立てて、自分自身の生き方を前向きな心へと向けていくことについて、ソフトバンク社長である孫正義さんは、「夢とは個人の願望であり、志（こころざし）は多くの人々の夢を実現させていこうという気概である。夢はこころよい願望であるが、志（こころざし）は厳しい未来への自分自身の挑戦状である。」と言われます。誰かのためにどのように行動していくのか、人の役に立つためにはどのようにすればよいか、といった考え方をしていくことが高い志（こころざし）へとつながっていくと考えておられます。「見て見ぬふりをしない。」「困っている人を助ける。」「色々な人とたくさん会話をする。」こういったことは、単なる自分の願望ではなく、誰かのためにどう生きるかといったことが含まれた気持ちのあらわれです。その延長線上にこそ、色々な職業の夢を自由に描くことができると考えられるのではないのでしょうか。自分自身の夢を描くだけでなく、自分になりたい職業をとおして多くの人のために何ができるのかといったことを考えることが大事なことです。例えば、将来は医者になりたいということが夢だとしたら、そこに「多くの人々の命を救いたい。みんなの健康を守りたい。」といった志（こころざし）が貫かれている必要があると思います。夢を膨らませると同時に志を高めていくことが大事なことであり、生徒の皆さんには、これからも常に学び、自分自身に問いかけることを忘れないでいてほしいと思います。未来に向けて、半歩先の達成できそうな目標を立て、日々の努力を積み重ね、有意義な学校生活を過ごしてほしいと願っています。



松陰神社蔵